

## 臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

聖路加国際病院

研究責任医師名：藤田信子（麻酔科 副医長）

住 所： 東京都中央区明石町 9-1

電 話： 03-3541-5151（代）

## ロボット支援下前立腺全摘術を受けた方を対象とした

### 術後回復強化(ERAS)導入による有効性の検証に関する研究

#### 1. 研究の対象

2016年11月～2017年12月に当院で前立腺癌に対してロボット支援下前立腺全摘術を受けた方

#### 2. 研究の目的・方法

この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2018年3月31日までの予定です。

##### <研究の目的>

ERASとは？

Enhanced recovery after surgery : ERAS（イーラス）は、術後回復強化と訳されます。ERASは、ヨーロッパ静脈経腸栄養学会を中心としたグループが提唱しはじめ、手術後の早期回復を目指して、侵襲の大きい手術（major surgery）後の管理に有効と論文で証明されたものを組み合わせた新しい管理方法です。

手術を受けた患者さんの負担をなるべく減らし、術後の早期回復、入院期間の短縮を目指しています。

具体的には術前の絶飲食時間の短縮、下剤などの腸管の前処置の中止、入院前カウンセリング、術後の悪心、嘔吐対策、カテーテル、点滴の早期抜去、チューイングガムを噛む、術後の早期飲水、飲食開始などがあります。

大腸癌の結腸切除に対して始まった試みですが、現在では有用性が認められ、様々な種類の術式に応用され上部消化管〔胃、食道〕、産婦人科領域でもガイドラインが作成されています。

##### <研究の方法>

ロボット支援下前立腺全摘術は現時点で大きな合併症もない手術ですが、術後の便秘が多い印象があり、術後の腹部膨満感、腹痛の訴えがあります。今回、当院ではロボット支援下前立腺全摘術にERASプロトコルを2017年7月より新たに導入しました。そこで、ERASプログラムがロボット支援下前立腺全摘術において術後腸蠕動の回復に効果があるかどうかERAS導入前（2017年6月まで）と後（2017年7月以降）で比較したいと思います。

#### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

<情報> 個人情報(氏名、性別、年齢、生年月日)身長、体重、術前心機能、疾患、合併症、カルテ番号、術後の初回排ガス時期、排便までの時間、飲水までの時間、食事1/2以上摂取までの時間、悪心、嘔吐の有無、術後合併症、入院期間、ガム咀嚼の有無、等